

## はじめに

「食物繊維はレタスの30倍！」

スーパーへ行けばそういう商品はいくらでも目に入るし、身体によさそうに思えます。

しかし、「レタスは野菜の中でもとくに食物繊維の少ない野菜」だということは、私も知りませんでした。そんな私でも、塾のことは知っています。31年もやっているからです。

「マンツーマンでやる気を出させ、生徒がぐんぐん伸びる塾」では、生徒がやってくると黙ってプリントを渡し、やり終えるとやはり黙って解答プリントを渡す。1時間の「授業」でひと言も言葉をかわしません。レタスのことは知っている人でも、塾の実態を知っている人はほとんどいないのではないのでしょうか。

事は深刻です。学校でも塾でも、教育はレタスのように「イメージだけを売る」ようになって久しいのです。

そういう教育の場では、プリントをどんどん出す授業はしますが、私が31年間聞かされ続けている、「うちの子、学校での様子を何も言ってくれなくて」とか、「医者にアスペルガーって診断されてしまった」という、パニック寸前の質問には何も答えられません。子どもを見つめるだけで、どうして

いいかわからない親御さんも多いです。

レタスにも、少ないとはいえ食物繊維は含まれています。教育現場も嘘は言っていないません。ただ、あまりにもそれだけを強調しすぎて、学校も塾も、世間も親も、「教育とはなんだったか？」を見失っています。

本来の教育とは何か？ それは子どもを大人にさせる「基本フォーム」を身につけさせることだと思います。その作業は高校までで完成するものではなく、いつ完成するのか、それで何か具体的にいいことがあるのかは、誰にもわかりません。教育とは本来そういうものなのに、塾を先頭に「受験合格の道具」としてわかりやすい「報酬」を確立させ、学校も飲み込んで本来の教育を忘れさせてしまっています。それで、今の学校や世の中はこんなふうになっているのです。

ただ、何がそうさせてしまったかという点、それは国や学校、塾のせいではなく、我々一般市民がそうさせてしまったように思われます。自分で自分の首を絞めることになってしまった、塾や学校もむしろ、否定できない正しいことも言っているでしょう。しかし、本来の教育を忘れてしまっているのだから、長期的にそれがうまくいくはずもなく、生徒は心の力を失い、教育現場は破たんしています。教師はそれを目の当たりにして知っているけれど、何も言えなくされて、世間が見ているのは教育ではないと言えないまでも、極めて限定された教育の幻影だということが知られていません。

誰も言ってくれないのなら、仕方がない、私が言いましょ。なくしてはならない何を忘れてしまっ

たのか。社会へ出たけれどまだ若い君や、子育て真っ最中の親のあなたが、「心のフオーム」を取り戻すきっかけになれば幸いです。